



2025年12月18日発行（通算第120号）

発行 呑川の会 代表 白石 琇朗

呑川の会HP <http://nomigawanokainet/>

# の み が わ

Facebook :: <https://www.facebook.com/profile.php?id=100093433484602>



## 池上第二小学校・清掃活動

記：志澤 勲

11月4日、池上第二小学校の清掃活動に呑川の会として参加しました。5時限に授業の一環として1年生から6年生までの全校児童が、小学校近隣の公園、神社、呑川沿道等を学年で分担して清掃しました。



写真1：欄干拭き作業風景

○ この授業の目的は、以下の2つと聞いています。

- 1 人のために働く良さを体験的に理解すること。
- 2 地域清掃活動を通して地域を愛する心・地域への関心・地域へ貢献する心を養う。

○ 呑川の会は5年生の呑川周辺の欄干拭き作業に同行しました。

日頃、川沿いを散歩する保育園や幼稚園の小さな子供たちは、蜘蛛の巣も多く汚れている欄干に手を添えて呑川を眺めています。児童たちは、そのような欄干ではいけないと、とても真面目に丁寧に清掃し(写真1)、また、呑川沿道のゴミ回収も行いました(写真2)。

○ 帰校後の閉会式で呑川の会として次のメッセージを伝えました。

「皆さんは清掃作業を終えて、地域の日常を新たに発見するとともに働くことに喜びを感じられたでしょうか？ 私たちが皆様に期待したいことは自分のことだけでなく、少しでも周りに関心を持ち、少しでも視野を広げて『周りを良くしたい』という気持ちを大切にしてください。」

そうした皆さんの思いが周囲に広がれば、あなたの居るところに善意の循環が広がります。小さなことから一緒に頑張りましょう。みんなで呑川及び周辺環境をきれいにしていきたいと思います。」



写真2:呑川沿道のゴミ回収作業

○ 今回の池上第二小学校の取り組みは素晴らしいです。児童だけではなく、私たち呑川の会もこの気持ちを日々持ち続けていきたいです。



写真3: 全校児童による清掃活動

## 三島市源兵衛川見学

記：塚本 茂

静岡県三島市には、富士山の伏流水を水源として市内を流れる川が4本あります。9月28日(日)その一つ、源兵衛川を歩いてきました。三島駅の南口からすぐの公園＝楽寿園内の小浜池を源流として、中郷温水池までの約1.5kmの農業用水を源兵衛川といいます。楽寿園を出た源兵衛川は、5m



写真1：川面風景

ほどの川幅に豊富な水をたたえて街中を流れて、南下する途中子どもが飛び込む深さ50cmほどの淵あり、川に沿って遊歩道、木道や川を横断する飛び石等が連なり、川面を見ながら歩くことができます(写真1)。

途中、旧東海道の下をくぐるあたりには名物の鰻屋があり、店内ではタライに汲んだ源兵衛川の水に3日間、鰻を泳がせています。

三島市の4本の川や隣の清水町の柿田川などは、ほぼ湧き水だけを水源にして川が始まっています。地下を流れてくるため、水温は年間を通して13°Cに保たれ、ミシマバイカモの自生を促しています。水温13°Cの湧き水は、そのままでは作物は育ちません。中郷温水池に源兵衛川の水を貯めて、太陽光で水温を上げたのち農業用水として流しています。

水量豊富で自然も含めて美しい源兵衛川は、東京オリンピック1964の少し前から、地下水の汲み上げにより水量が減少し、市民がゴミを捨てるようになり、悪臭を放つようになりました。

水温13°Cの清流でないと自生しない三島周辺の固有種＝ミシマバイカモ(水中で咲く白い花が梅に似ているので三島梅花藻)も、水環境が悪化し市内の川から姿を消しました。こちらは近くの湧水地を借りて、三島梅花藻に里として生き残っていた株を増殖すると共に各河川に移植しています。現在の美しい源兵衛川は、グラウンドワーク三島を中心とした市民の活動が支えています。

備考：興味を持たれた方は、グラウンドワーク三島(<http://www.gwmishima.jp>)

## 呑川の清掃活動

記：すがや 郁恵



写真1：清掃を終えて@11月8日

私は、10月11日(土)霊山橋、11月8日(土)の弾正橋から仲之橋間の清掃活動に参加しました。霊山橋は池上本門寺御会式期間中でした。どのように清掃活動に参加すればよいかわからない初参加の私に、先輩会員が「幼児さんや幼稚園児も橋から川をのぞき込むので欄干を拭きましょう」と声をかけ誘ってくれました。一言で清掃活動と言いますが、色々なことに取り組んでいることがわかりました。

また、弾正橋の清掃の時は、前日から風が吹いていたためか枯葉がたくさん落ちていました。「こんなにたくさん落ち葉を拾いきれるのか。」と思いましたが、皆さんは超ベテランです。30分の間に道路の枯れ葉が見事に片付けました。また、欄干を拭いていると、そばを通る方から「ありがとうございます」の声掛けもありました。

清掃活動を終えてから、佐久間(ちかし)会員から「呑川についてのレクチャー」、および、南会員による「京急蒲田駅再開プラン」に関する話など、貴重な知識・情報も得ることもできました。

朝7時からの活動、とても気持ちがいいものですね。

# 2025 秋 カワセミのヒナを救助しました 記：田代 勝行

註：野鳥保護に関しては、東京都環境局自然環境部の鳥獣保護管理担当(03-5388-3505)に相談の上、対応しましょう！！

1

2025年9月4日午前6時25分



ヒナが巣離れ直後に呑川に落下

5



7時1分羽を広げて飛び立とうとする仕草

2



流れ速く数百  
羽下 鶴林橋  
にたどり着く

6時34分救出 全身ずぶ濡れで寒さに震えて

6



7時10分大きく翼を広げたが飛ぶことはできず

3



居合わせたウオッチャーが持ち合  
わせの布や紙で丹念に拭き上げ

7



養源寺さんに池  
のメダカを捕ら  
せていただき 与  
えたが1尾しか  
食べず

4



ホツとしたものの 元気がない

8



やがて翼の輝きも  
蘇り活発になっ  
たので10時47分  
久崎橋に戻り放  
鳥した

翌日は豪雨で呑川も増水したので間一髪の救出劇でした

# (特集コーナー) 小学校の呑川学習

池上小学校(10月7日)、久原小学校(10月14日)

記: 須藤 英児



写真1: 谷中橋付近 @10/7

大田区の中央を流れる呑川は、私にとって「ふるさとの川」ですが、記憶にある1970年代の堤方橋付近の呑川は酷く汚れたドブ川でした。しかし、平成7年以降は、落合水再生センターからの下水処理水導入のおかげで流量も増え、窒素リンの多い富栄養状態の川になり、多様な生き物が住み暮らす豊かな川になりました(写真)。



写真2: 谷中橋付近 @10/14

子どもたちが、呑川学習を通し環境意識の向上(一層の環境改善)に繋がれば良いと日々考えています。

## 池上小学校

ウォーク日時	参加学年など	コース(電車+歩行)	学びとポイント
10月7日	5年生 100名 	池上駅から御嶽山駅へ電車移動→東調布公園(休憩)→天神橋→霊山橋まで下流へ→池上小学校へ ・天神橋—霊山橋 距離: 2.1km 高低差: -4.2m 下流へ	・河床清掃作業を見学(場所: 長栄橋—北の橋) ・カルガモやクロダイを観察 ・木片で流速測定 区間: 「長栄橋—北の橋」 距離: 150m

写真3: 東調布公園にて

## 久が原小学校

ウォーク日時	参加学年など	コース(電車+歩行)	学びとポイント
10月14日	3年生 130名 	久が原駅から蒲田駅まで電車移動→蒲田小学校 菖蒲橋→根方橋まで上流へ(途中、高濃度酸素施設見学)→久が原小学校へ ・菖蒲橋—根方橋: 距離 3.4km 高低差: +3.5m 上流へ	・蒲田小学校で飼われている呑川の生物を観察 ・高濃度酸素水施設(写真) ・永寿院のご住職から昔の村の話しを拝聴 ・児童と呑川の会とて給食の食事会

写真4: 高濃度酸素水施設

## 雪谷小学校

記: 古海 信雄

ウォーク日時	参加学年など	コース(全て歩行)	学びとポイント
9月24日	3年生 98名  ※ 写真1, 2, 3 次頁参照下さい	雪谷小学校(上流へ)→中原街道→島畑橋付近「郷倉」の鈴木家を右折→東京科学大構内→境橋→工大橋→地下道・緑ヶ丘駅 休憩→呑川緑道→(下流へ戻り)石川台中の桜並木→中原幹線→西の橋を右折 旧呑川の流れ路を通り 雪谷小学校へ ※ 流速測定は中止	・工大橋から石川橋まで 屈曲した川筋 ・石川橋下流: 直線的川筋 ・水害対策の中原幹線 ・呑川と流域の高低差、 ・橋名に漢字とひらがな表記 ・多くの昆虫や植物が生息



写真1: 中原幹線 (多摩川へ)

写真2: 石川台中学校付近

写真3: 西の橋方面へ (戻り)

◎9月17日事前スライド学習を実施しました。児童から事前に質問を受けたところ、地図、橋、植物、水中生き物、鳥などが多かった。また、事後学習(質問タイム)が、参加者8名で10月17日に実施されました。

◎さらに、11月14日には児童が呑川で落ち葉を拾い、柵を拭くなどの清掃活動を行いました。参加児童は草の茂みにゴミが捨てられていることを知り呑川を綺麗にしなければならないとの思いを強くしたそうです。

◎なお、発表会は、11月28日(金)に実施されました。

※ 流速測定：当日は流れが少なく(落合水再生センターからの処理水導入停止中)、一本橋から行う木片投げは中止しました。また、先生方の要望には科学大学内の「瓢箪池(ヒョウタンイケ)」見学がありましたが、距離が長くなり過ぎるため、呑川の会としては今回実施しませんでした。近くの池から呑川に流れ込むことが学習の一つのポイントになりますので、今後は、現地にスポットガイドを置くなどを検討してはどうかと感じました。

## 池雪小学校

記：荒井 伸幸

ウォーク日時	参加学年など	コース(全て歩行)	学びとポイント
11月12日	6年生152名	池雪(ちせつ)小学校のある荏原病院通り →高低差ある坂を呑川へ下り→雪谷中学校(下流方向へ) →久が原久根児童公園で折り返し →池雪小学校へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標高差による呑川の流域</li> <li>・東調布公園で施工中の呑川流域中流部合流改善整備</li> <li>・耕地整理による直線的川筋</li> <li>・豪雨対策としての河床と両側壁のコンクリート護岸</li> <li>・市民団体が都に要望し実現した自然に近い河床</li> <li>・洗足流れ口型の吐口</li> <li>・ユスリカ捕虫器</li> <li>・呑川の会要望で実現した植栽</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・流速測定</li> <li>・芹ヶ谷橋一本村橋</li> <li>・距離:70m</li> </ul>	
写真1: 急こう配階段	写真2: 流速測定		

◎9月9日事前スライド学習を実施しました。講師の白石代表の軽妙で分かりやすい話術で、時に児童への質問の投げかけを入れて、図書「わたしたちの都市河川 呑川」をコンパクトにまとめた講座となりました。

◎全体を通じて児童の呑川に対する関心は高く、四角形の吐口は支流の流れだが下水道は丸形あること、自然に近い河床の見学などには歓声が上がりました。また、合流式下水道ゆえに豪雨時には呑川に汚水を流さざるを得ない現状には、どうすればいいのか 真剣に考えている様子でした。

歩きながら、呑川を横断する上水道管とガス管の色の違いなど…、数多くの質問も児童からありました。

# 蒲田小学校に「のみがわ水族館」出現！

～わたしたちのふるさとの川 呑川～

記：菱沼 公平

○ 子どもたちがあまりにも自分たちのふるさとの川である呑川に関心をもっていなかったことに驚きました。

\* 子どもたちは、呑川について「汚い、臭い」と言って、関心をもっていないようでした。

・ 2024年蒲田小学校に赴任した三上真矢先生(主幹教諭)は、そこで2025年1月頃、交通安全指導員の河野正義さんと相談し呑川にワナを仕掛けることにしました。勝手に行うと色々な意見が出ると思い、「呑川の生きもの調査を行いたい」と大田区に相談したところ、「良いことですね、ふるさとの川である呑川に対して、関心をもつ、一つのきっかけになりますね」と言ってくれたそうです。

○ そこでさっそくワナを川に沈めましたが、(初めのうちは)、なかなか生き物は入りませんでした。

最初に獲れたのは「モズガニ」でした。獲れたカニを当時の4年2組の水槽に入れたところ、子どもたちは餌が分からず、毎日違う餌を与え、餌の残量を調べるなどして何が良いか学習しました。このように生きものを観察し関心をもって行動しました。最後に、このカニの名前は、投票で「カニパン」と決めました。

○ 現在までワナに入った生きものは、モズガニが9匹(4匹は子供、1匹は水槽から脱走した)、カメ2匹(アカミガメ(クサガメではない)、ボラ、スズキ、ヌマチチブ、ヨシノボリ、スジエビ、テナガエビ)などです。

・「のみがわ水族館(写真1)」のある場所が1・2年生の下駄箱のある所なので、飼育している6年生と低学年の子どもがときどきカメを散歩させている風景が見られる、とのこと。

・今では、仕掛けのワナも6年生の子が手作りした物を使うなど、「のみがわ水族館」も浸透してきました。

○ 三上先生は、「のみがわ水族館にもっと生きものが増え、子どもたちが呑川に関心・興味をもって私たちのふるさとの川を好きになって欲しい」と話されていました。



写真1：蒲田小学校に「のみがわ水族館」出現！

\* 12月9日(火)、5年生3クラスの児童を対象に「ミニ学習会:呑川のはなし」を実施しました(白石代表)。

## 秋の都市河川ウォーク 善福寺川を楽しむ

記：佐久間 芳夫

2025 年秋の都市河川ウォークは、11 月 22 日（土）東京 23 区の西端、杉並区の善福寺川で行いました。参加者は 12 人、午前 10 時荻窪駅前を出発、近くの界橋から善福寺川に出て、6 キロ先の神田川合流地点→中野富士見町駅（東京メトロ丸の内線）に向けスタートしました。

.....  
**◎人に優しい散策路：** しばらくは兩岸とも住宅街です。呑川と似たような感じですが、何かが違います。道幅が狭く、従って自動車が通りません。川沿いの柵がやや低く、水面がよく見え、公園の中も同じです。人に優しい散策路が続きます。

流れる水は澄みとおり、水面一杯に長い水草がゆったりと泳いでいます。各種のカモがおいしそうに藻をついばみ、コサギやアオサギもいるのでエサになる小魚がいるのでしょう。



写真 1：メタセコイアの紅葉

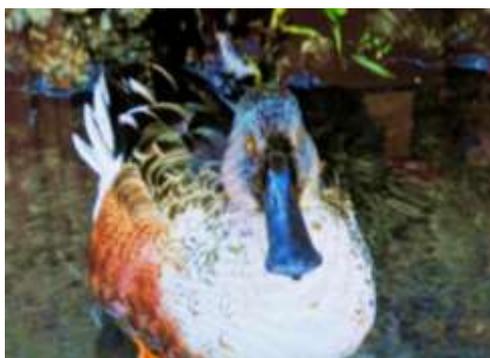


写真 2 呑川では見かけぬハシビロガモが

**◎広場・巨木・豊富な施設：** やがて、視界は広がり都立善福寺川緑地に入ります。曲がりくねった川の左右に広がる緑地は、続く都立和田堀公園と合わせると 443,790㎡になります。その間、ブナ、イチョウ、メタセコイアなどの巨木が日陰を作り、広場の各所に置かれたベンチやテーブルが人に憩いをもたらします。広い野球場やテニス練習場もあります。なんとも豊かな環境で、うらやまします。また、中流で川の湾曲部を利用して作られた「済美公園」は、「最新の親水公園」として活用されているようです。

**◎低地ゆえの課題・調整池の充実：** 一方、善福寺川は低地を流れる河川であることから「氾濫する川」といわれてきました。2005 年（平成 17 年）には集中豪雨により 3,000 戸が浸水被害を受けました。このため都では洪水時対応策を増強しています。

平成 28 年緑地内に地下調整池を完成させたほか、平成年間には環状 7 号線・地下広域調整池を運用を行い、集中豪雨に対応しています。さらに、現在は、環状 8 号線地下調整池計画が事業認可され、時間降雨量 75 ミリに対応するための工事に取り組んでいます。



写真 3：ウォーク参加者 @緑地公園にて

## 雪谷文化センター祭り「呑川展示」

記：もり 愛

10月12日、雪谷文化センター祭りで、都市河川「呑川」の自然環境保全や地域文化の発信を目的として呑川の会による展示発表が行われました(写真1)。



写真1：呑川の会 展示発表風景

「呑川で出会える生きものたち」など写真や資料を通じて呑川の自然環境や課題を紹介し、また、河川清掃や環境教育、子ども向けイベント（鯉のぼり祭りなど）の取り組みをパネルで紹介しました。さらに、呑川の水質浄化の取り組み、プラスチックごみによる海洋汚染の課題など、身近な自然環境と日々の生活がいかに関連し繋がっているかを来場者の方に共に考えて頂く問題提起にもなっていました。

来場者の声として、「呑川の自然を守る活動を初めて知った。地域にこういう団体があるのは心強い。」・「カワセミが可愛い。呑川で探してみたい」・「呑川こども鯉のぼり祭を毎年楽しみにしている」などが寄せられ、『わたしたちの都市河川 呑川』を購入する方もいらっしゃいました。

### 「呑川の会」当面の活動日程

(記：事務局 森 巖)

\* 全体メールへの返信には、ご注意ください。

1	1月17日(土)：13時30分～16時、定例会、駅前消費者センター、1階教室 1月20日(火)：13時～15時、緑道(行政)チームM、駅前消費者センター、2階多目的S 1月24日(土)：池雪小学校、6年生、発表会
2	2月17日(火)：13時～15時、緑道(行政)チームM、駅前消費者センター、2階多目的S 2月21日(土)：13時30分～16時、定例会、駅前消費者センター、1階教室
3	3月7日(土)：エコフェスタ、大田区区民ホール・アプリコ (B1：展示室・小ホール) 3月17日(火)：13時～15時、緑道(行政)チームM、駅前消費者センター、2階多目的S 3月21日(土)：13時30分～16時、定例会、駅前消費者センター、1階教室

(編集後記) ..... (記：荒井 伸幸)

この会報にあるように、秋は区内の各小学校において、総合学習の時間・大田区独自教科「おおたの未来づくり」として呑川学習の授業が開催されました。また、児童による呑川周辺の清掃活動、呑川の生物の飼育も行われました。こうした体験により、児童の身近にある呑川への愛着が深まればありがたいことです。

また、将来児童が日本全国、あるいは世界中に羽ばたいたとしても、その地で河川などの身近な自然に興味を持つ大人に成長してくれれば望外の喜びです。

Merry Christmas & Happy New Year ! 以上